2026 年 10 月 27 日
日本船主協会　企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～新潟にて海事施設の見学会を開催～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者や児童生徒を対象に、商船・海事施設の見学会、授業協力、資料提供等を実施しております。

今般、北陸信越海事広報協会、北陸信越運輸局とともに、新潟国際貿易ターミナルおよび日本海エル・エヌ・ジーの協力を得て、10 月 15 日（木）に新潟市立万代長嶺小学校の 5 年生 37 名を対象にコンテナターミナルおよび LNG 新潟基地の見学会を開催しましたので、その様子をお知らせします。

はじめに、児童たちは新潟東港コンテナターミナルの会議室で、海運についての授業を受けました。その後、同ターミナルの管理棟屋上からコンテナターミナル全景を見学し、続いてバスで構内を巡りながら荷役作業や施設の様子を見学しました。

続いて、日本海エル・エヌ・ジーの LNG 新潟基地に移動し、担当者による説明を受けながらバスで基地構内を見学しました。最後に会議室で LNG 輸送の仕組みについて学び、見学会を通じて海運とエネルギー輸送の役割への理解を深めました。

① 新潟東港コンテナターミナル



海運についての授業の中で、当協会からは、日本は海に囲まれており、海外との貿易によって暮らしや産業が支えられており、貿易量の 99%以上を海運が担っていることを説明しました。特に新潟県や新潟港の貿易の特徴を紹介すると、児童たちも身近な話題として理解しやすかったようで、「新潟すごい！」と喜んで聞いていました。続くコンテナターミナルの見学に備え、コンテナ船やコンテナの特徴を説明すると、児童たちは真剣にメモをとりながら聞いていました。質疑応答では、「1 つのコンテナはどれくらいの重さの荷物が入るの？」「コンテナ船は 1 日でどのくらい燃料を使うの？」など多くの質問があり、海運に興味を持ってくれた様子でした。



会議室での授業後は屋上に上がり、コンテナターミナルを見学しました。当該ターミナルで運営業務を行っているリンコーコーポレーションの方がコンテナターミナルについて説明し、児童たちは屋上の配置図を見ながら一生懸命に話を聞き、メモを取っていました。構内で見かけたストラドルキャリアに興味を持った児童たちは、その名称を何度も口にしながら覚えていました。バスに戻って、構内見学をする頃にはすっかり

言い慣れ、「ガントリークレーンとストラドルキャリアは１基、いくらですか？」としっかり質問できるようになっていました。構内では、2 日前に供用を開始したばかりのバンプール（空コンテナの蔵置スペース）や、着岸中のコンテナ船の荷役を見学しました。リンコーコーポレーションのご担当者からガントリークレーンの運転室の位置を説明されると、「どうすればガントリークレーンのドライバーになれるの？」と質問が挙がりました。

普段入ることができない場所に、児童たちは興奮した様子を見せながらも、熱心にメモを取り、コンテナターミナルの見学が終了すると、先生にメモ用紙の追加を求める児童が多くみられました。

②日本海エル・エヌ・ジー新潟基地

広大な敷地を有する LNG 新潟基地では日本海エル・エヌ・ジーご担当者とともに構内をバスで巡り、車窓から巨大な LNG タンク等を見学しました。地震などの災害に備えて LNG タンクにはさまざまな安全対策が講じられているほか、基地の一部は地盤改良された埋立地の上で造成されていることや、タンク周辺には高さ約 8m のコンクリート壁を設置し、多数の消火設備を配置するなど万全の安全対策が取られているため、過去の地震で被害が生じたことは一度もないとの説明がありました。



基地内を見学した後、モス型・メンブレン型の LNG 船やタンク構造等の模型が展示された会議室に移動し、天然ガスは一旦冷却して液体にすることで体積を減らし、効率的に大量輸送していることなどを教わりました。ここでも児童たちは、模型を見るだけではなく、ホワイトボードに貼られた説明資料を見に行き、メモを取っていました。



今回の見学会を通じて、児童たちは海運やエネルギー輸送が私たちの暮らしを支える重要な役割を担っていることを学ぶとともに、普段見ることのできない物流・エネルギー関連施設への理解を深める機会となりました。

当協会は引き続き、日々の暮らしを支える海運について広く知っていただくための活動を実施してまいります。

以上